

どこかで

読谷小学校

五年三組

天尾

成海

今からホホに入つて、動物や植物をみよう。

少し行つた所で、だれかが言つた。

ホホでおだやかで気持ち良いね。

私は言つた。

本当だ。とても気持ち良いね。

すると、そう一人が言つた。

でも強い動物が弱い動物を食べたりする人

だよ。

それからしばらく歩くとハブがヤンバルク

イナをつかまえて食べていた。すると、

の子は言つた。

ほらね。

おだやがだと思つている自分の知つている

場所も見方を変えるとどこかですごく悲惨

なことが起きていたりというのだ。

地球で考えてみると、平和でおだやかに見

える私たちの世界もどこかの国ではすごく悲

惨なことが起きています。

今から75年前、この沖縄も悲惨な戦争があった。1945年、4月に米軍が沖縄本島の読谷村に上陸し、沖縄本島の全体に広がっていった。米軍はまず、読谷補助飛行場を襲った。この戦争でなくなつた人は日本軍9千136人。米軍は12520人亡くなつた。実に4人に1人の人が亡くなつたといふことだ。それからから75年。ぼくたちの学級でも沖縄戦について学んだ。平和の学習で1番バに残つているのが名嘉憲夫さんの詩「沖縄」や皆変わ

て、行き止まる。だ。この詩は、うちなあぐちで書かれています。学級でうちなあぐちの意味を考える中で名嘉さんの詩のとらえ方が深ま

つていった。詩の中で名嘉さんは、木林の形、浜の色、人の姿、みんなの心が変わつてしま

つたと書いています。ぼくたちの学級では、木林の形が爆弾で変わった。浜の色が血やガソ

リンの色で染まったりする様子が見えてきた。

また、爆弾で人の姿が変わつたり、優しくな

た人が暴力的になつたりするなど、みんなの

バが変わっていく様子を考えることができた。
詩を通して戦争と平和について向き合えたこ
とがバに残った。

この沖縄でおこった悲惨な戦争が2度と無
いように今からできることは何だろうか。

平和の作文を書くこと？

平和の絵を描くこと？

慰霊祭に参加すること？

ぼくたちにできることはいろいろあると思う。

ぼくは、いつも学校に通い、授業をして習

い事をして平和にすごしている。でも地球全
体で考えると、沖縄戦のような状況で七く
つてしまいう人がいる場所がある。まずはぼく
ができることを続けていきたい。平和を願う
気持ちがいっまでも伝わるように、6月23日
の慰霊の日は黙とうを捧げたい。